

窓

「窓」に寄せる思い
 「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
 小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

「先生としての学び」

所長 佐藤 敏宏

今年5月に新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、ウィズ・コロナからポスト・コロナに向けた歩みが進んでおります。当センターにおきましても、研修の目的や内容に応じて、コロナ禍で急速に進んだオンラインによる研修は残しつつも、基本的な感染対策を継続しながら、対面による協議や演習が効果的な研修は参集して実施しております。

参集での研修の中では、参加した先生方の授業構想を熱心に伝える姿、その発表を真剣に聞く姿、日ごろの教育活動での不安や悩みについて相談し合う姿など、オンラインでは見られない姿に、対面ならではの効果を感じられます。何よりも、研修に参加した先生の「聞く力」のすばらしさに、これまで培われてきた教師力の一つを強く感じております。

さて、教育公務員特例法及び教育職員免許法の改正に伴い、今年4月から受講履歴を活用した対話による受講奨励が実施となっています。皆さんの学校では、どのように進められているでしょうか。

『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和4年12月19日 中教審答申）においては、Society 5.0時代の到来に対応し、教師の情報活用能力、データリテラシーの向上は一層重要であることや、様々な分野で発生する予測のできない非連続的な変化が予想される中、教師や学校は、社会の変化に背を向けるのではなく、前向きに受け止めていくことが必要であるとされています。また、OECDのFuture of Education and Skills 2030プロジェクトにおいて、“Learning Compass 2030”が提唱され、子供たちがWell-beingを実現していくために、自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されました。予測のできない変化が予想されるこれからの社会に対応するためには、私たち教師自身も、子供たちと同様に「自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付ける」必要性が求めら

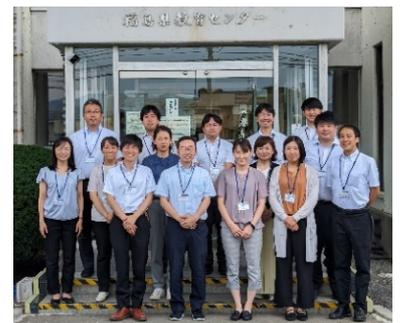
れてきます。

受講奨励の制度によって、今後進められていく研修履歴の記録を、自身の学びの記録として活用しながら、先生方一人一人には、目の前の子供たちのために、また所属する学校の組織の充実のために、どのような学びを進めるのがよいのかを、主体的に考え、目標を設定して、行動していただきたいと思えます。

受講奨励、研修受講という、少し義務感ややらされ感を受ける方もいらっしゃるかもしれませんが、これらを教員としての学びの機会に改めて開かれたことと、前向きに捉えていきましょう。

当センターにも、どのような学びを進めるのがよいのかを、主体的に考え、行動しているメンバーがいます。それは、各市町村教育委員会、各県立学校長から派遣していただいている15人の長期研究員です。研究テーマは教科指導に関する事、教育相談に関する事、不登校に関する事と様々ですが、それぞれが、互いに切磋琢磨しながら、学びを進めております。長期研究員としての派遣は、大きな受講奨励です。派遣元の皆様に感謝するとともに、この学びの姿と研究成果が、これまで以上に協力校や県内の各校に広がっていくことを期待しています。

結びに、当センターでは、受講奨励の制度を踏まえて、事前申込みが不要なオンラインによる聴講や、興味や関心に応じて自主的に参加できる自主講座などの新たなコンテンツを開設したり、研修の申し込みを期首面談の時期に合わせたりするなどの対応をしております。これからも、県内の先生方の学びたい気持ちに伝えられるよう努めてまいります。



本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター
 TEL 024-553-3141 (代表)
 URL <https://center.fcs.ed.jp/>

〒960-0101 福島市瀬上町字五月田 16 番地
 FAX 024-554-1588
 E-mail center@fcs.ed.jp

「学び続ける力」を高める学習指導の在り方（第一年次）

—指導方法の工夫・改善を通して—

令和5年度 学びの変革推進プラン ～「学びの変革」の実現に向けて～

福島県では、令和4年度から12年度までの9年間の教育計画として、第7次福島県総合教育計画が策定されました。「個人と社会のWell-beingの実現」を目指し、「福島ならではの」教育の充実のために、「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」へと、「学びの変革」が掲げられました。そして、年次計画として作成された令和5年度 学びの変革推進プランでは、全ての子供たちに必要な資質・能力を育成するために、改めて「一方通行の画一的な授業」からの「学びの変革」が強調されています。

〈学びの変革〉

第7次総合教育計画施策の展開

個別最適化された学び
協働的な学び
探究的な学び

学びの変革推進プラン



本県の喫緊の教育的課題が、この「学びの変革」の推進と実現であると言えます。調査研究チームでは、この「学びの変革」の実現のために子供たちに必要とされる資質・能力について着目し、研究することとしました。

本年度の研究内容 ～「学び続ける力」に関する理論的研究を中心に～

「学びの変革」の実現にとって子供たちに必要とされる資質・能力を考えたとき、「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」の三つに共通するものとして、学習の内容や方法、プロセスを自分で調整したり、他者と折り合いを付けたりしながら、粘り強く「学び」をつなぎ続けていく、学びをつなぐ自己調整の力を想定しました。そして、そこから、知識等を活用したり、協働して新たな価値や課題を生み出したりして学びをつなぎ続けていく力、すなわち「学び続ける力」を、「学びの変革」の実現に必要とされる子供たちの資質・能力であり、その実現の過程で育成されるもの、と考えました。

学び続ける力

〈学びの変革〉

- ◇ 知識等を活用する
- ◇ 協働的に学ぶ
- ◇ 新たな課題を発見する



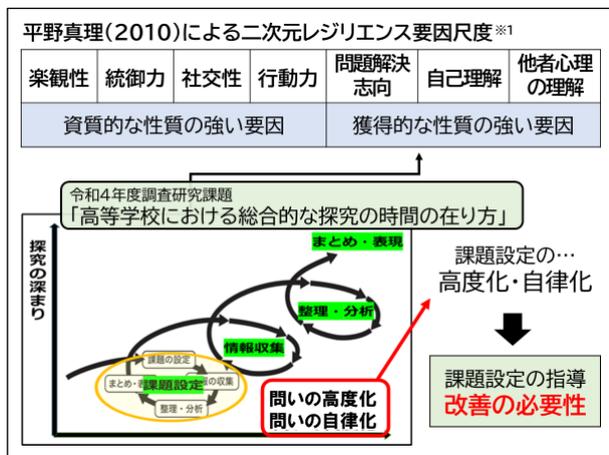
本研究では「学び続ける力」を…

「学習負荷のかかる状態・状況においても、自分の知識等を活用したり、協働的に取り組んだり、新たな切り口を考えたりして、あきらめることなく問題の解決や学習のゴールに向かって取り組み、学ぶ価値や意義を見出すことができる力」

と定義しました。

1 「学び続ける力」を測定するための質問紙作成

「学び続ける力」を高める指導方法の工夫・改善を考えるために、まずは「学び続ける力」の現状を把握する必要があります。そこで、児童生徒の「学び続ける力」の実態を把握するために「学び続ける力」を測定する質問紙作成を行いました。その際、着目したのが、ストレスや逆境状況の中でうまく適応し、心理的な傷付きから立ち直る力「レジリエンス」と、令和4年度本センター調査研究で明らかとなった「問い」や「課題設定」の高度化・自律化です。



※1 平野真理, 2010 「レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み—二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) の作成」『パーソナリティ研究』第19巻第2号 (pp.94-106) 他

2 測定を基にした抽出児童生徒の実態把握と児童生徒のニーズに対応する効果的な指導方法の考案

研究協力校等の小学5年生から高校1年生（10歳から16歳の児童生徒）316名に、作成した質問紙に回答してもらいました。ご協力ありがとうございました。

実施した質問紙の回答結果を基に、抽出児童生徒の決定、彼らの「学び続ける力」の実態把握を行った後、彼らの実際の学び、特に対話活動の様子を観察しました。そして、児童生徒のニーズに対応する効果的な指導方法を考えることとしました。

〈協力校：小学校〉



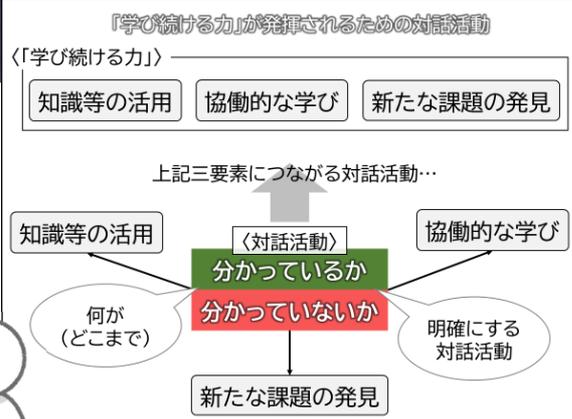
〈協力校：中学校〉



〈協力校：高等学校〉



今後も算数・数学科長期研究員と探究的な学びに関する調査研究委員会とのハイブリットなコラボレーションによるチーム研究によって、児童生徒の「学び続ける力」を高める学習指導の在り方について、小・中・高の校種枠を超えた共通性や系統性を明確にしつつ、「学びの変革」の推進と実現の具体的な道筋を、これからも発信していきたいと考えています。



令和5年度 教員研修チーム 算数・数学科の取組

専門研修等

算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座

教材の本質を捉えるとともに、数学的活動を充実させ、児童の数学的に考える資質・能力を育む授業づくりの研修を行い、その識見と指導力の向上を図ります。



教える授業から子供が学ぶ授業に変わる数学科授業改善講座

子供が数学的活動に主体的に取り組むための授業の在り方についての研修を行い、その識見と指導力の向上を図ります。



新課程に対応した高等学校数学科統計授業づくり講座

中学校・高等学校の系統性を重視し、統計的探究プロセスを意識した生徒の問題解決や意思決定につながる授業づくりと、ICTを活用した指導法の研修を行い、その識見と指導力の向上を図ります。



観点別学習状況の評価に対応する高等学校数学科単元・授業づくり講座

観点別学習状況の評価に対応するための単元・授業づくりの研修を通じて、生徒の学習状況を的確に見取る力、並びに授業マネジメント力の向上を図ります。



児童・生徒が1人1台端末を活用する授業基礎講座

オンライン

- ・授業における1人1台端末の活用例の紹介や体験を通して授業力の向上を図ります。(小・中学校等)
- ・生徒の資質・能力を育成するための1人1台端末を活用する授業への理解を深めます。(高等学校等)



基本研修（小学校・中学校・高等学校等）

・初任者研修 ・2年次教員フォローアップ研修 ・5年経験者研修 ・中堅教諭等資質向上研修

資質の向上に関する指標及び内容系統表を踏まえた、各ステージに応じた研修における視点

- 学びの変革に向けた「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」の視点
- 育成を目指す資質・能力の視点
- 主体的・対話的で深い学びの視点
- 数学的な見方・考え方の視点
- 指導と評価の一体化のための学習評価の視点
- 数学的活動を重視した授業づくりの視点
- 模擬授業による実践的な視点
- 外部講師による高い専門性の視点
- ICT活用の視点
- … 等々



令和5年度 理科 専門研修講座紹介

令和5年度に教育センターにて実施した理科の各種専門研修講座について、紹介します。

子どもが目を輝かせて学びを進める理科授業づくり講座【小】



児童が関心や意欲を高め、見方・考え方を自在に働かせて資質・能力を育む小学校理科の授業の在り方についての研修を行い、その識見と指導力の向上を図ります。

「導入で子供たちに問いをもたせるには、どのような工夫をすれば…」 「実験は盛り上がるんだけど…」 など、普通の授業における困り事はありませんか。理科の授業づくりにおける**福島大学人間発達文化学類 准教授 鳴川哲也先生**の分かりやすいお話と、事象提示や観察、実験の工夫における演習、そして授業の構想における協議を通してポイントをつかみ、クラスの子供たちが目を輝かせて学びを進める小学校理科の授業を実現してみませんか。

NEW 見方・考え方を豊かにする中学校理科教材づくり講座【中】



生徒が見方・考え方を働かせるための観察・実験の指導法や、それに伴う教材づくりの工夫についての研修を行い、その識見と指導力の向上を図ります。

今年度より、研修の内容を「**教材づくりを中心とした中学校理科**」に変更しました。研修者のもつ教材の情報を共有し、生徒の見方・考え方を働かせるための教材を協力してつくり上げる研修をしていきます。生徒が主体的・協働的に学ぶことができる教材や指導法を一緒につくっていきましょう。

NEW 科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座【中・高】



単元づくりや授業づくりに関する実践的な研修を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導力を高めます。

今年度より、授業づくりに特化した、**中学校と高等学校合同の研修**を開設しました。**筑波大学人間系教育学領域 助教 遠藤優介先生**による理科の授業における資質・能力の育成とその評価に関する講義・演習、指導と評価の計画の作成を通じた単元構想の共有と協議の中で、生徒の資質・能力を育む授業づくりについて考えていきましょう。

NEW 高等学校理科観察・実験講座【高】



「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた物理、化学、生物、地学に関する観察・実験の研修を行い、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導力を高めます。

今年度より、**観察・実験に特化した高等学校教諭と理科実習助手合同の研修**を開設しました。前期、後期の研修を通して、各領域における科学的な見方・考え方を育むための観察・実験の方法、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する観察・実験の指導法について考えていきましょう。

今年度につきましては、ご好評のうちに終了いたしました。

受講いただいた先生方、誠にありがとうございました。

次年度も理科の専門研修に、奮ってご参加お待ちしております！



長期研究員の研究紹介

当センターの13名の長期研究員は、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので、県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと考えています。今回は、その研究内容を紹介します。

国語科

研究主題 (R5・R6)

「言葉を拠りどころに読み深める力」を育てる国語科授業の在り方 -児童の「読み方」を引き出す「比べ読み」を位置付けた単元構想の工夫を通して-

菊池 祥子(伊達市立掛田小学校)

児童が「読み方」を自覚、習得、活用する場を段階的に設定する「比べ読み」を位置付けた単元構想を工夫することで、叙述に着目して、読みを深める力の育成を目指しています。



国語科

研究主題 (R5)

高等学校国語科における「叙述に即して論理の展開を捉える力」の育成 -文章の構造を把握するプロセスの工夫を通して-

菅野 愛(福島県立福島西高等学校)

「情報と情報との関係・情報の整理の仕方」を意識し、ワークシートを使って自分の思考過程を可視化することで、文章の内容や構成、論理の展開を捉える力の育成に取り組んでいます。



社会科

研究主題 (R5・R6)

「よりよく社会と関わる力」を育む社会科指導の在り方 -選択・判断の場を位置付ける単元構成の工夫を通して-

富田 彩(伊達市立梁川小学校)

児童が自ら見いだした問いを解決することで得られた知識が選択・判断の規準となるよう単元構成を工夫することで、よりよく社会と関わる力の育成を目指しています。



理科

研究主題 (R5・R6)

実験結果を基に考察する力を育む小学校理科学習指導 -問いの視点をもつ自由試行と、実験方法について検討・改善する活動を通して-

後藤 太成(西郷村立小田倉小学校)

事象との出会わせ方や、実験方法の検討・改善を繰り返す活動を工夫することで、児童の「実験結果を基に考察する力」の育成を目指しています。



理科

研究主題 (R4・R5)

「科学的に考察する力」を育成する中学校理科指導 -より妥当な考察をする際の「考え方」の機能化と顕在化-

和田 陽輔(白河市立五箇中学校)

生徒が働かせる理科の「考え方」がより機能するような学習場面を工夫し、「考え方」を顕在化させ価値付けることで、「科学的に考察する力」の高まりを目指します。



理科

研究主題 (R5)

「科学的に思考する力」を育む高等学校生物の授業づくり -目的意識をもって探究の過程を繰り返す観察・実験を通して-

齋藤 卓也(福島県立伊達高等学校)

自然の事物・現象からの気付きを基に、生徒が自ら問いを見だし、観察・実験を探究的に繰り返すことで「科学的に思考する力」が高まることを目指していきます。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、令和6年3月に発行する「令和5年度研究紀要第53集」をご覧ください。当センターのWebサイトからご覧いただくことができます。

<https://center.fcs.ed.jp/>



英語科

研究主題 (R4・R5)

目的や場面、状況等に応じて読む力を育成する中学校英語科学習指導の在り方 -概要や要点を捉える「読み方」のよさに気づき、価値づける学習過程を通して-

安藤 武志(会津坂下町立坂下中学校)

生徒が目的を明確にして読むための学習課題を設定し、英文の概要や要点を捉える「読み方」を活用できるように学習活動を工夫することで主題に迫ります。



英語科

研究主題 (R5)

「論理的でまとまりのある文章を書く力」を育成する学習指導の在り方 -統合的な言語活動のプロセスを工夫したライティング指導を通して-

伊藤 征洋(福島県立二本松実業高等学校)

ライティングの認知プロセスモデルである「計画・文章化・推敲」の各段階に統合的な言語活動の場面を設定することで、生徒の「論理的でまとまりのある文章を書く力」の育成を目指します。



保健体育科

研究主題 (R5・R6)

課題解決への見通しをもつ力を育む中学校保健体育科指導の在り方 -「学びの視点」から運動の分析や対話を行う思考場面のデザインによって-

桃井 陽介(玉川村立玉川中学校)

自他の課題を見付け、改善していく視点を「学びの視点」とし、それを基に課題の発見・解決に向けた学習活動を工夫することで、課題解決の見通しをもつ力の育成を目指しています。



教育相談

研究主題 (R5)

しなやかな思考ができる生徒を育成する指導の在り方 -リフレーミングの習得・活用とアウトプット活動を通して-

大橋 明美(福島県立福島南高等学校)

物事の捉え方を変えるリフレーミングの習得・活用や定着を図る活動を通して、日常生活の出来事に対して、しなやかな思考ができる生徒の育成を目指します。



算数・数学科

研究主題

(R5・R6)

統合的・発展的に考察する力を育成する算数科・数学科授業の在り方 -関数(変化と関係)領域における「系統表」を活用した単元・授業デザインを通して-

佐藤 翔英(田村市立大越小学校)

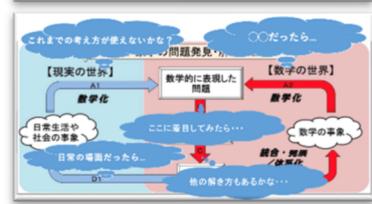
齋藤 真実(大玉村立大玉中学校)

門馬 弘一(福島県立ふくしま新世高等学校) ※R5のみ



福島県教育センター初の小学校・中学校・高等学校、算数・数学科長期研究員3名によるチーム研究です。算数・数学科は系統性のある教科です。子供の学びをつなげ、新たな数学を創り出していく力として、「統合的・発展的に考察する力」が挙げられます。特に、本県の課題である小学校「変化と関係」領域、中学校・高等学校「関数」領域に焦点化して、「統合的・発展的に考察する力」の育成を目指していきます。

具体的研究内容は、従来の系統表では見えてこなかった、学びのつながりが見える系統表を学習指導要領を基に作成します。そして、この系統表から、統合的・発展的に考察するための手がかりである「統合・発展の芽」を捉えて、単元デザインをします。算数・数学の問題発見・解決の過程の各局面で、「統合・発展の芽」を引き出すことができるような授業デザインをします。



※ 学校名は、所属校(研究協力校)です。

令和5年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島 の 教育をつくる ～

令和5年11月22日（水）

9:50～16:20 開催



趣旨 本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの研究・研修業務の成果の発表と意見交換等を行う。

実践・研究発表

学習指導，教育相談，情報教育等について，県内学校・園および当センター等による19の発表を行います。

講演会

演題 『「メタ認知」に働きかける授業づくり』
講師 岩手大学教育学部 准教授 久坂 哲也 氏

参加方法等

詳細については、当センターWebサイト「福島県教育研究発表会」をご覧ください。

タゼミ・オンライン

教員が勤務時間中に気軽に参加できる，オンラインによるセミナーです。「これからの教師を考える ～教師アップデートのヒント～」をテーマに，多様な視点からゲスト等が語り合います。また，チャット等で参加できるものもあります。

詳しくは，各学校に届くお知らせをご覧ください。

カリキュラムセンター

カリキュラムセンターは，県内の公立学校の先生方や学校から，日常の教育活動でお困りのことについて相談を受け，様々な支援を行う窓口です。

来所相談は，当センター第1棟2階カリキュラムセンター相談室で対応します。

教職員研修を対象とした出前講座や指導主事等派遣は，当センターWebサイト「出前講座・聴講講座・カリキュラムセンター案内」の教職員研修講師派遣（出前講座等）をクリックし，問い合わせフォームに入力してください。なお，オンラインによる派遣も可能ですので，御活用ください。

オンライン聴講講座

県内の国公立学校・園の教職員及び私立幼稚園等の教職員を対象として，教育センターの各種研修における外部講師の先生方の講座の一部をオンライン形式で配信します。申込は不要です。

詳しくは，当センターWebサイト「出前講座・聴講講座・カリキュラムセンター案内」をご覧ください。

№	教科等	講義・講話等題名	主 要 な 内 容	所 属	職 名	氏 名	月 日	時 間	講義（講座名）
1	職能	講義「カリキュラム・マネジメント」	小・中・高等・特別支援学校の校長先生を対象としたカリキュラム・マネジメントに関する講義の様子を視聴することができます。	明星大学 教育学部	教授	吉富 芳正	6月8日（木）	10:00～ 12:00	職能研修「校長のためのマネジメント講座」
2	職能	講義・演習「学校組織マネジメント」	小・中・高等・特別支援学校の校長先生を対象とした，学校組織マネジメントに関する講義の様子を視聴することができます。 ※ 演習は除きます。	ウィー シュタイ ンズ株式 会社	代表取 締役	赤司 展子	6月8日（木）	13:00～ 15:50の 一部	職能研修「校長のためのマネジメント講座」
3	理科	講義・演習「理科の授業における資質・能力の育成とその評価」	自然の事物・現象を科学的に探究する資質・能力を育成するために，どのような授業を展開していけばよいのか，また，3観点の評価をどのように行っていくべきなのかについて，演習を交えて考えていきます。	筑波大学	助教	遠藤 優介	7月20日（木）	10:00～ 12:00	専門研修「科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座」
4	理科	講義「これが分かれば悩まない！理科の授業づくりのポイント」	子どもが目を輝かせて学びを進める姿を具現化するためには，授業においてどのようなことを心がければよいか，また理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成するとはどのようなことなのかを，丁寧に教えていただきます。	福島大学	准教授	鳴川 哲也	8月10日（木）	10:00～ 12:00	専門研修「子どもが目を輝かせて学びを進める理科授業づくり講座」
5	数学	講義・演習「主体的に学習に取り組む態度を見取る授業の在り方」	観点別学習状況の評価で最も課題となる「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方及び見取るための授業の在り方を，成田慎之介先生と一緒に，授業づくりを軸に考えていきます。	東京学芸 大学	准教授	成田慎之介	8月28日（月）	13:00～ 15:45の 一部	専門研修「観点別学習状況の評価に対応する高等学校数学科単元・授業づくり講座」
6	職能	講義「カリキュラム・マネジメント」	小・中・高等・特別支援学校の教頭先生を対象としたカリキュラム・マネジメントに関する講義の様子を視聴することができます。 ※ 演習は除きます。	横浜国立 大学	名誉教 授	高木 展郎	8月31日（木）	10:00～ 12:00	職能研修「教頭のためのマネジメント講座」
7	職能	講義・演習「学校組織マネジメント」	小・中・高等・特別支援学校の教頭先生を対象とした，学校組織マネジメントに関する講義の様子を視聴することができます。 ※ 演習は除きます。	国士館大 学	教授	北神 正行	8月31日（木）	13:00～ 15:50の 一部	職能研修「教頭のためのマネジメント講座」
8	家庭	講義「これからの保育学習に求められるもの」	近年の少子化による異年齢交流の減少や児童虐待等の問題により，青年期における家庭科の保育学習が重要視されています。そこで，中・高生含め家庭科における「幼児の触れ合い体験」を含む保育学習の効果について研究されてきた倉持清美先生の講義を道し，これからの保育学習の在り方について学びます。	東京学芸 大学	教授	倉持 清美	11月9日（木）	13:00～ 14:45	専門研修「保育に関する指導の充実をめざす家庭科講座」